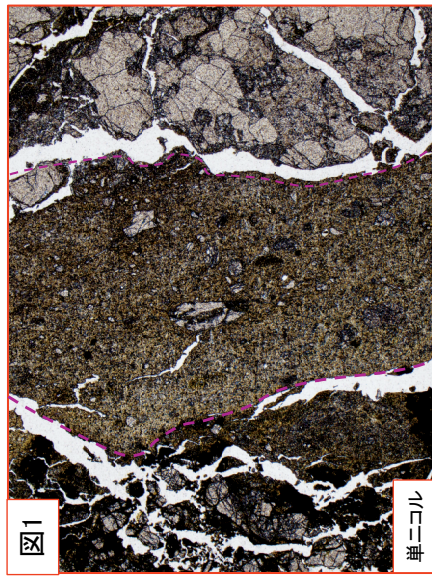
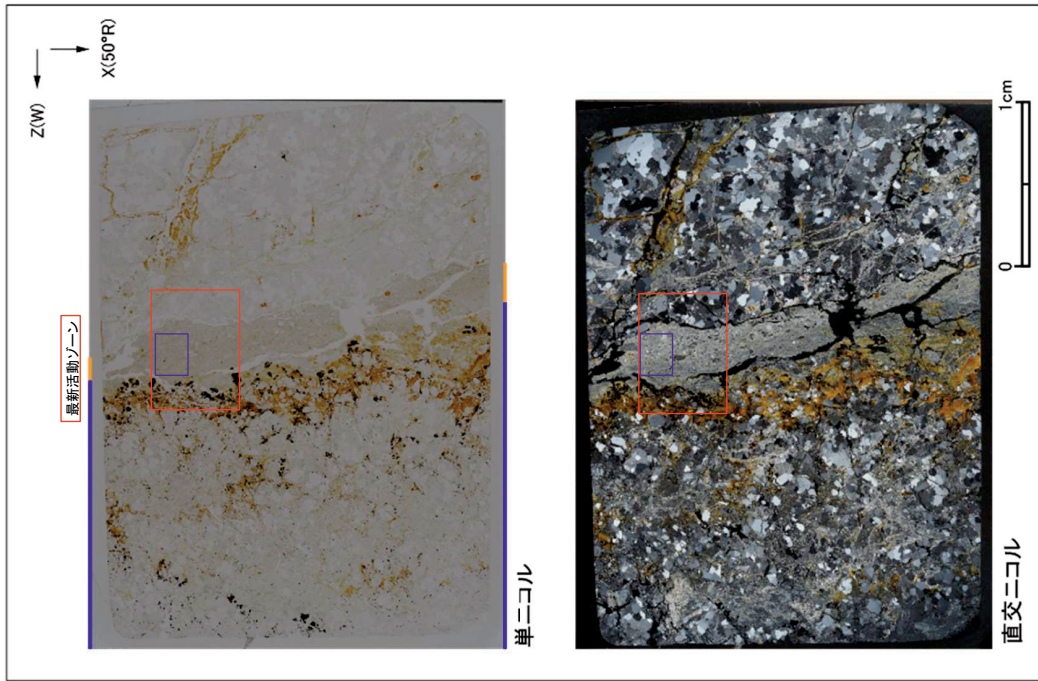
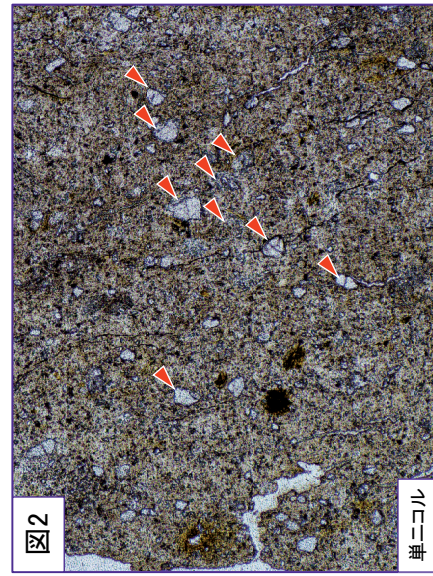
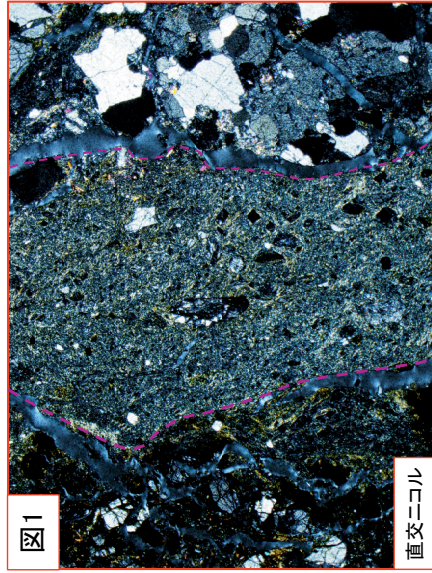


・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。

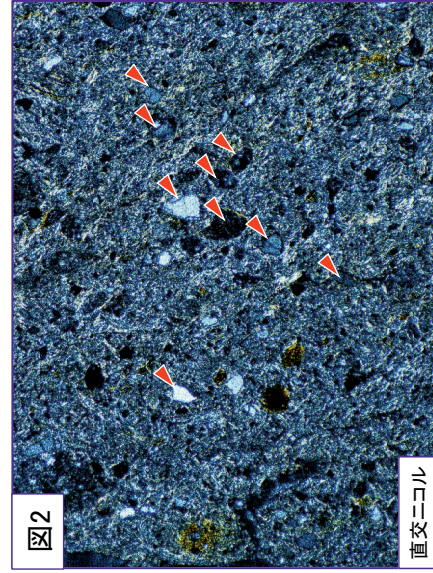
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図1)
- 粘土状部の分布は帯状である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)



破線は粘土状部の分布を示す



赤三角は丸みを帯びた岩片を示す
岩片は少なく、丸みを帯びているものが多い



(肉眼観察結果 深度26.00m)

- 深度26.00mの「幅5～8mm程度の「幅広い黄橙色粘土と幅1mm程度の褐色粘土」と記載の箇所については、粘土は軟質で、連続性が良く、一部を除き、直線性も良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 α に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 α は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められた。
 - 基質は粘土鉱物を主体とする。
 - 粘土状部の分布は帯状である。
 - 丸みを帯びている岩片が多い。
- 薄片観察では、カタクレーサイトの特徴が認められなかった。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部を断層ガウジであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から断層ガウジであると評価した。

- 肉眼観察で確認された「幅5～8mm程度の「幅広い黄橙色粘土と幅1mm程度の褐色粘土」と記載の箇所は、その特徴から断層ガウジであると判断した。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。

断層ガウジ・断層角礫の有無	断層ガウジ・断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・変形構造 *
有	0.8	有

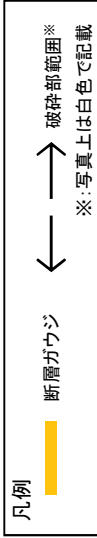
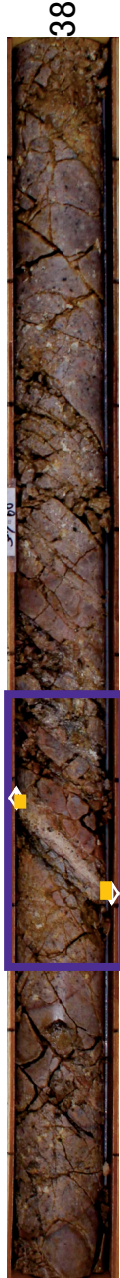
*: 断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

・深度37.34～37.35mの「細礫混じり灰白色粘土状」と記載の箇所については、軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらことから断層ガウジであると判断した。

ボーリング柱状図

●37.34～37.35m：破碎部
幅5～10mm程度の細礫混じり灰白色粘土状部(Hc-2)。上端・下端とも40で直線的。軟質。

コア写真



灰白色粘土の連続性・直線性が良い



青砂部拡大

・薄片は断層面 β 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

コア写真

※断層面 β は最新活動面

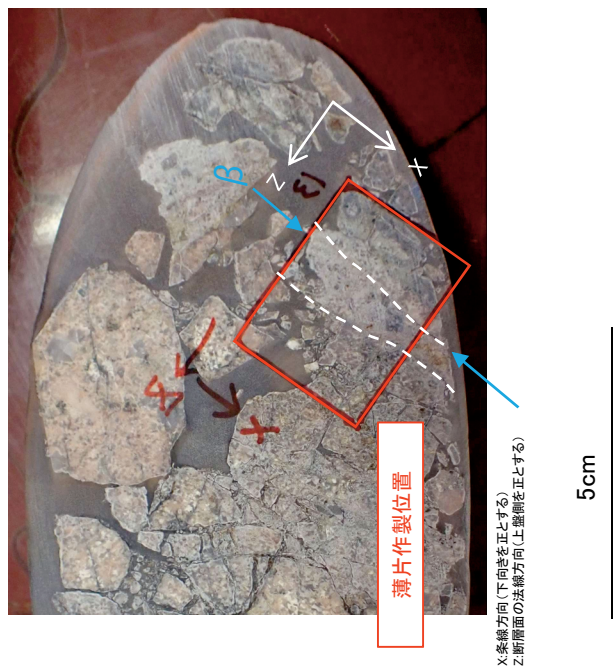


凡例

断層ガウジ ← → 破碎部範囲※ 断層面

※: 写真上は白色又は黒色で記載

薄片作製位置写真

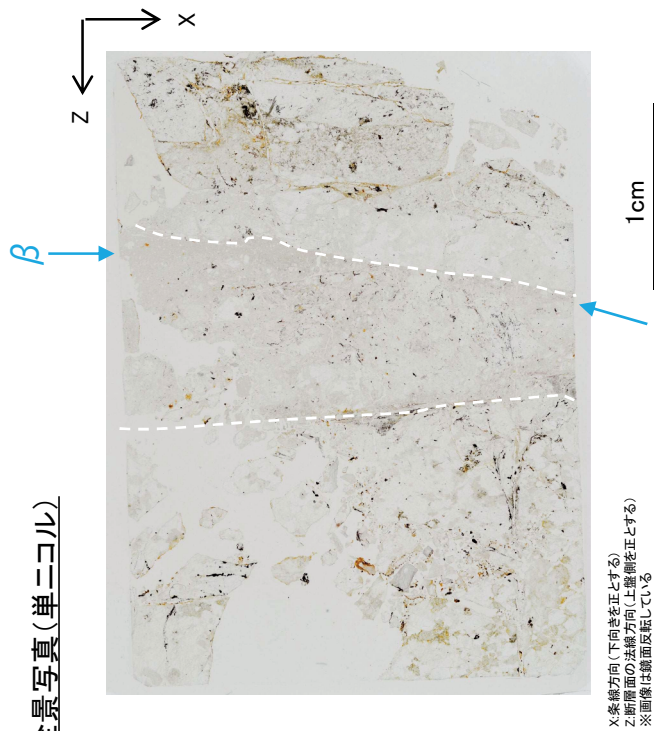


凡例

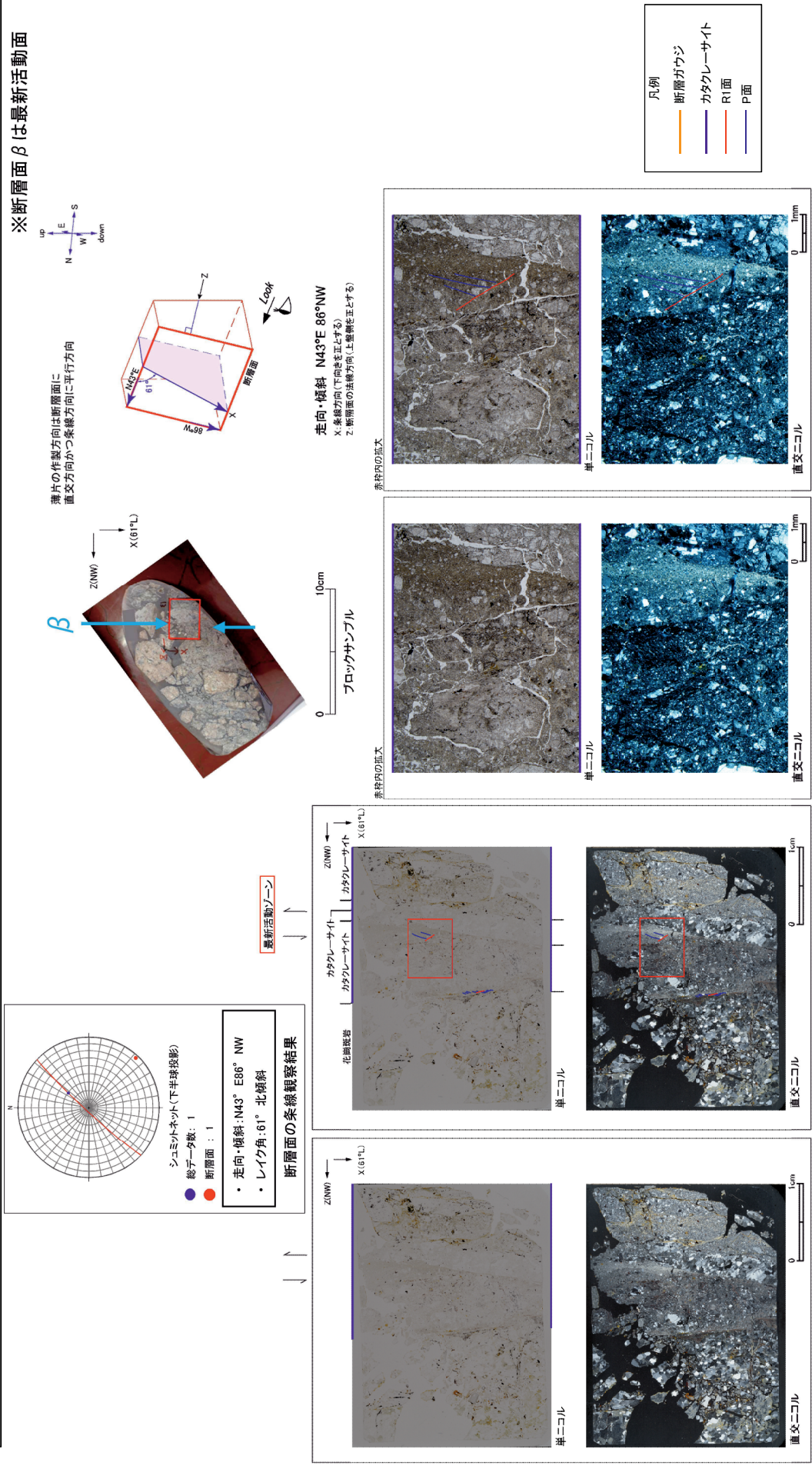
断層面 ----- 肉眼観察で相対的に細粒化が進んだ範囲※

※: 写真上は白色又は黒色で記載

薄片全景写真(単ニコル)



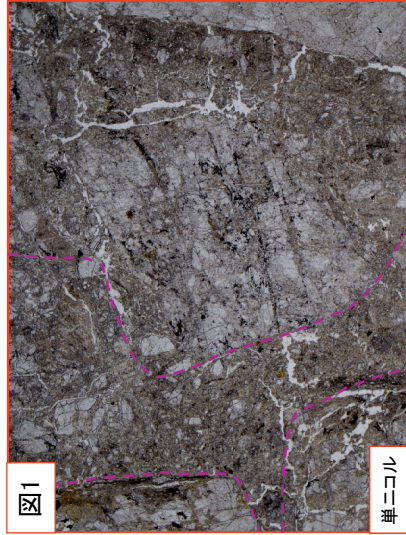
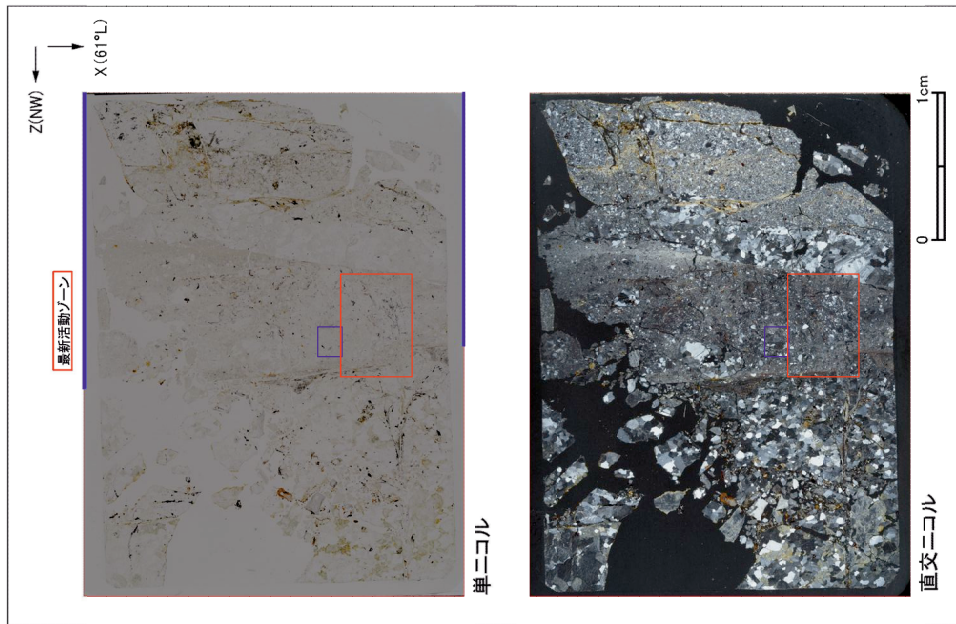
- ・ H29-ReB14-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、右ずれを伴う正断層である。
- ・ 最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトのみからなる破砕部であると判断した。
 - (カタクレーサイト) 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
 - (カタクレーサイト) ある程度の直線性を有するが、断層面に沿った粘土状部の分布は局所的かつ不連続である。
 - 岩片は少ない。
 - (カタクレーサイト) 角ばった岩片が多い。
 - (カタクレーサイト) ジグソー状の角礫群が認められる。



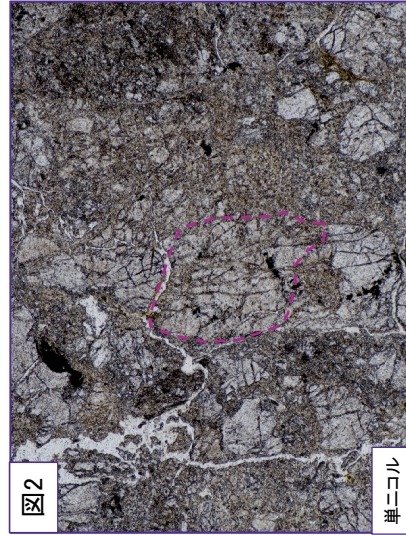
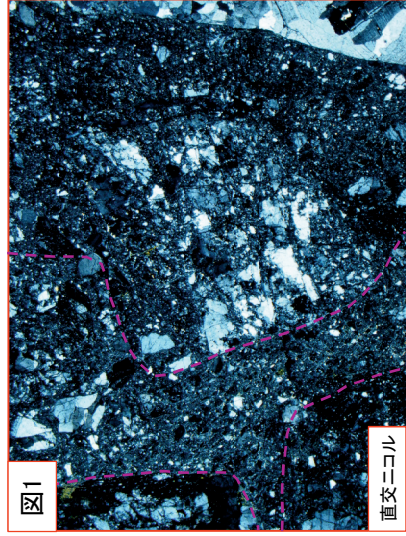
第7.4.4.350図 (3) 破砕部性状 H29-ReB14-2 深度37.34~37.35m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/2))

・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。

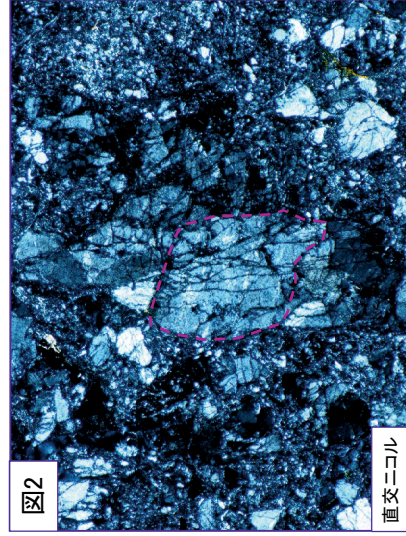
- ▶ 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
- ▶ ある程度の直線性を有するが、断層面に沿った粘土状部の分布は局所的かつ不連続である。(図1)
- ▶ 岩片は少ない。(図1)
- ▶ 角ばった岩片が多い。(図1)
- ▶ ジグソー状の角礫群が認められる。(図2)



破線は粘土鉱物の分布範囲を示す



破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す



(肉眼観察結果 深度37.35m)

- ・ 深度37.34～37.35mの「細礫混じり灰白色粘土状」と記載の箇所については、軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

(観察位置)

- ・ 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面βに沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面βは最新活動面

(薄片観察結果)

- ・ 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められなかった。
 - ・ 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
 - ・ ある程度の直線性を有するが、断層面に沿った粘土状部の分布は局所的かつ不連続である。
- ・ 薄片観察では、以下の通りカタクレーサイトの特徴が認められた。
 - ・ 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
 - ・ ある程度の直線性を有するが、断層面に沿った粘土状部の分布は局所的かつ不連続である。
 - ・ 角ばった岩片が多い。
 - ・ ジグソー状の角礫群が認められる。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部をカタクレーサイトであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から変質したカタクレーサイトであると評価した。

- ・ 肉眼観察で確認された「細礫混じり灰白色粘土状」と記載の箇所については、その特徴から断層ガウジであると判断した。
 - ・ 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴からカタクレーサイトであると判断した。
- 肉眼観察で断層ガウジと認定した「細礫混じり灰白色粘土状」と記載の箇所については、薄片観察では岩片主体の基質で構成されている。このため最新活動ゾーンの細粒部は変質したカタクレーサイトと評価した。

断層ガウジ・ 断層角礫の有無	断層ガウジ・ 断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・ 変形構造 *
無	- (1.0)	-

*:断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

第7.4.4.350図(5) 破砕部性状 H29-ReB14-2 深度37.34～37.35m (断層岩区分の総合評価)